

2018年(平成30年)4月7日(土)

三島駅南口東街区再開発

事業者決定へ

ミサワホームなど共同企業体に

三島駅南口東街区の再開発事業について事業者を公募していいた三島市は6日、住宅メーカー大手・ミサワホームを代表企業とする計6社の「アスマチ三島プロジェクト共同企業体」が最優秀提案者に決まったと発表した。提案内容は、ホテル（約100室）とマンション（194戸）の入る高さ約100㍍のビルを含め計4棟を建設するもの。地権者の合意が得られれば5月にも正式決定する。

【垂水友里香】

提案では他に、医療関連機関や検診センター、サイクルステーションが入る商業施設などを建設する。また、「三

島の水景や緑と連携した親水拠点」「地域散策の拠点となる施設整備」も進める。
市民団体などから懸念の声が上がっていた地下水の保全については「いいを打たない「直接基礎」とし、地下約10㍍を流れる地下水の流れを遮断しないよう地下水位と水質の監視も行うとしている。
市によると公募には5つの企業体が参加し、事業計画や開発条件セプトなど八つの項目で審査した。総事業費は約220億円で、うち市は補助金など61億円を負担する。2025年2月のグランドオープンを目指す。

東街区は、三島市函南町土地開発公社が1997年度、旧国鉄清算事業団から取得した土地と24の地権者が所有する民有地の約1・3㌶。過去にも開発計画が持ち上がり、参入予定だった事業者が11年年の東日本大震災を理由に撤退した経緯がある。同じく開発計画の

進む駅西街区は、東急電鉄が事業者に決まり、ホテルを含む商業施設

豊岡武士市長は「駅前の再開発は20年来の懸案。開発によりにぎわいや活力を生み出し、より一層三島での

暮らししが誇りになるものにしていきたい」と話した。

三島駅南口東街区の再開発で提案されたビルのイメージ
図=三島市提供

